

研究テーマ	[V 造形教育の広がりを考える] 伝え合うことを通して、思いを主体的に表現する造形活動の工夫 ～小学校第 5 学年の造形遊びにおける表現と鑑賞の一体化を通して～
-------	--

ひたちなか市立外野小学校

つくば市立春日小学校 教諭 樋口 郁

1 研究テーマについて

(1) 研究テーマ設定にあたって

平成 20 年 1 月の中央教育審議会の答申の中で、図画工作科の学習指導要領改善の基本方針について次のように述べられている。

○「よさや美しさを鑑賞する喜びを味わうようにするとともに、感じ取る力や思考する力を、一層豊かに育てるために、自分の思いを語り合ったり、自分の価値意識を持って批評し合ったりするなど、鑑賞の指導を重視する。」

○「形や色などによるコミュニケーションを通して、生活や社会に豊かに関わる態度をはぐくみ、生活を美しく豊かにする造形や美術の働きを実感させるような指導を重視する。」

ここで重要なのは、「自分の思いを語り合ったり、自分の価値意識を持って批評し合ったりする」「生活や社会に豊かに関わる態度をはぐくみ」などの言葉から読み取れる通り、学習活動における図画工作は決して一人の作業によって完結するものではなく、他者とのかかわりの中で成立するという観点である。

本学級の児童は、図画工作科の学習に意欲的であり、どの活動においても積極的に取り組んでいる。しかし、他者という鑑賞者の視点を意識しはじめ、自分の作品がどう思われるのかを気にしたり、思うように表現できず、自信をもって製作に取り組めなかったりという児童もいる。

一方で、国語科における「一人一人の思いや考えを表現できる力を育てる」という「伝え合うこと」を目標とした授業研究のアンケートでは「グループの中だと意見が出しやすい」「自分の思いつかなかった考えを聞くことができ面白い」「友達の意見を聞くことによって考えが深まったり、より良い意見にまとめたりすることができる」などの感想があり、友人と交流をすることで考えが広がったり深まったりすることの良さに気づいている児童も増えてきている。

そこで、自分の思いや表現したいことを伝え合いながら製作することで、相手の良さを認めたり、時にはぶつかったりしながら、感じ取る力や思考する力を引き出し、より自分の思いを具現化した創造的な作品を作り上げることができるのではと考え、この主題を設定した。また、グループで問題や課題を自分たちで解決しながら活動することで、一人の時よりも自信をもって前向きに取り組むことができ、完成したときには大きな達成感や充実感を感じることができると考えた。自信をもって取り組むことは、学びの充実感に繋がると考える。そして、生活を豊かにする造形や美術の働きやよさに気付かせたい。

(2) 研究のねらい

思いを主体的に表現し、つくり出す喜びを味わうことのできる造形活動のあり方を究明する。

(3) 研究の仮説

①伝え合う活動を学習過程の中に組み込み、他者との関わりの中で感じ取る力や思考する力を引き出すことで、発想を広げ、自分の思いを実現する造形活動ができるであろう。

②グループで思いを実現する造形活動をすることで、つくり出す喜びを味わうことができるであろう。

(4) 研究の内容

①主題に迫るために

本研究を行うにあたって、事前に図工の時間に関するアンケート調査を行ったところ以下のような結果が得られた。(資料1)

アンケートの結果を見ると、図工の学習は好きと答えた児童は34名中26人にのぼり、図工の学習について意欲的であることがわかる。しかし、その一方で「どんな活動をして

資料1

アンケート結果 (男子15名・女子19名 計34名) 11月14日実施

1 図工の学習は好きですか。		<ul style="list-style-type: none"> ・楽しいから ・そうぞうするのが楽しい ・自分で何かを考えて自由につくれる ・つくるのが好き ・細かい作業が苦手 ・アイデアがでない
好き	26人	
どちらかという好き	4人	
どちらかという好きではない	4人	
好きではない	0人	
2 図工でどんな活動をしているときに楽しいですか。(複数回答可)		<ul style="list-style-type: none"> ・見てほしい ・一生懸命つくったから ・自分の作品が下手だから ・笑われそう ・恥ずかしい ・他の人と比べて自分がだめな気がする ・つまらない物しかつけれない ・納得できないことが多い ・どう紹介して良いかわからない
どんなものをつくるか考えているとき	11人	
絵を描いているとき	15人	
紙やほかの材料などで工作しているとき	25人	
ねんどで造形しているとき	13人	
自分たちの作品の鑑賞会をしているとき	5人	
絵画などの鑑賞をしているとき	9人	
3 自分でつくった作品を、自信をもって友達に紹介できますか。		<ul style="list-style-type: none"> ・見てほしい ・一生懸命つくったから ・自分の作品が下手だから ・笑われそう ・恥ずかしい ・他の人と比べて自分がだめな気がする ・つまらない物しかつけれない ・納得できないことが多い ・どう紹介して良いかわからない
自信をもって紹介できる	7人	
どちらかという紹介できる	8人	
あまり自信をもって紹介できない	13人	
紹介できない	16人	
4 今までにみんなで(グループで)一つの作品をつくったことはありますか。		
ある	5人	
ない	29人	

いるときに楽しいか」という質問に対して、自分達の作品の鑑賞会と答えた児童は5人と少ない。また、「自分でつくった作品を自信をもって紹介できる」と答えた児童は34人中7人だけであった。図工の学習は好きでも、自分の作品に自信がもてず、その結果制作途中で意欲をなくしてしまったり、鑑賞活動に積極的に取り組めなかったりすることがわかった。

②基本的な考え方

本研究は、伝え合う活動を中心とした児童の学び合いの場を積極的に学習過程に取り入れることによって、自分達の表現したいもののイメージをより具体化し、グループで試行錯誤しながら思いの実現を図っていくという研究である。主題設定の理由で述べたように、「感じ取る力や思考する力を、一層豊かに育てる」ためにはお互いの作品を見てよさを感じたり、よりよい表現のために話し合ったりする鑑賞の活動を重視する必要がある。そこで本研究では表現と鑑賞を別の活動と区別せず、「表現と鑑賞の一体化」を図った。「表現と鑑賞の一体化」とは、「発想→製作→発表」という学習過程の中で、何度もお互いの作品を鑑賞し合い、話し合いながらよりよい方法を見つけ出し、思いの実現に向かって製作を進めていくという考え方である。

2 実践例

(1) 題材名 出現！なぞの巨大〇〇！～30周年の外野小に何かが起こった～

(2) 題材の目標

- ・身近にあるものを、そっくりに大きくつくることに取り組もうとしている。
(造形への関心・意欲・態度)
- ・巨大につくって置くと面白そうな身近なものについて、形や色、大きさなどを考えている。
(発想や構想の能力)
- ・効果的な色や形、大きさになるよう段ボールなどの材料の扱い方、つなぎ方、色の塗り方などを工夫している。
(創造的な技能)
- ・自他の表現の意図や特徴、意外性などをとらえ、面白さや良さを感じ取っている。(鑑賞の能力)

(3) 題材について

① 主題に迫るための単元構想

本研究における製作活動の題材は、「出現！巨大〇〇！～30周年の外野小に何かが起こった～」である。身近な場所に本物そっくりの巨大なものをつくって置くことで、その風景を意外性のある楽しい世界に作り変えることを目的とし、段ボールを主材料として、形や色を考えながらグループで協力して製作を進めていく。また、本校は今年度創立30周年を迎え、10月には30周年記念行事を盛大に行ったばかりである。この機会を利用し、「30周年を迎える学校にハプニングを起こす登場人物達をつくる」というテーマを作品製作の動機付けとした。そして、製作後の広がりとして、11月最後の授業参観日に学校の敷地内に作品を展示することとした。保護者や他クラスの児童に作品を見てもらい、作品の説明をしたり感想をきいたりすることで、自分の作品をふり返り、より面白さや良さを感じ取ることができると考えた。以下は、本題材における単元構想である。(資料2)

② 感じ取る力や思考する力を引き出し、発想を広げるための交流活動

資料2

「出現！巨大〇〇！～30周年の外野小に何かが起こった～」(9時間扱い)の単元構想

次	時	児童の活動	交流活動	指導・助言
1	1	身近なものを巨大にする意外性に気付き、つくりたいものを考える。	① 実在する、身近なものを大きくした作品について話し合う。	・身近なもので大きくなったら面白いものはどんなものかな。
2	2	巨大化させたいものをグループで相談し、設計図を書く。	② 校内を自由に回り、場所との関係を考えながらグループで巨大化させたいものを話し合う。	・どこに置いたら意外性があるかな。 ・どんな事件が起こるかな。
	3	試作品をつくって鑑賞会をする。	③ グループでよりよい方法を話し合いながら製作していく。 ④ 他グループの試作品を見て、「よいところ」やアドバイスを付箋紙に書いて伝え合う。	・「本物らしく」「丈夫に」などのポイントを呼びかけていく。 ・どの班も、「よいところ」「アドバイス」の両方の付箋をもらえるようにしよう。
3	4 ～ 7	身近なものを巨大化させることで意外性を感じる作品を作る。	⑤ グループでよりよい方法を話し合いながら製作していく。 ⑥ 他グループの作品を鑑賞しながらよいところなどを取り入れて製作する。	・よい方法を見つけた班があれば全体に紹介し、よいところを取り入れていく雰囲気作りをする。
4	8 ～ 9	グループで発表の準備をし、ギャラリートークを行う。	⑦ 効果的な展示場所や発表方法について話し合う。 ⑧ 保護者や他クラスの児童に作品を見てもらい、作品について話し合う。	・自信をもって発表できるよう、アドバイスをする。 ・作品についての話が広がるよう、助言する。

「出現！巨大〇〇！～30周年の外野小に何かが起こった～」の単元構想(資料2)で記したように、自分たちの表現したいものの実現のために、いくつかの交流活動を意図的に組み込んだ。単元構想の中の交流活動①～②は、主に発想を広げ、自分のつくりたいもののイメージを具現化するための活動である。そして、交流活動③～⑦は、主に自分たちの思いの実現のためによりよい方法を見つけて製作するための活動である。(以下、交流①、②等の表記は資料2中の交流活動①～⑧を示すこととする)

③ つくり出す喜びを感じるための交流活動

交流⑧は、つくった作品を他者に見てもらふことで、つくり出す喜びを感じるための交流である。その効果的な鑑賞方法として、「ギャラリートーク」を取り入れた。ギャラリートークとは、美術館などで展示されている作品について、観客が学芸員やボランティアと一緒に作品について自由に話し合う活動のことである。鑑賞会の方法にギャラリートークを選んだ理由は保護者や他クラスの児童に作品を見てもらい、作品の説明をしたり感想をきいたりすることで、自分の作品をふり返り、より自分たちの作品のよさを感じ取ることができると考えたからである。

(4) 題材の評価基準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
身近にあるものを、そっくりに大きくつくることに取り組もうとしている。	巨大につくって置くと面白そうな身近なものについて、形や色大きさなどを考えている。	効果的な形や色、大きさになるよう段ボールなどの材料の扱い方、つなぎ方色の塗り方などを工夫している。	自他の表現の意図や特徴、意外性などをとらえ、面白さやよさを感じ取っている。

(5) 指導と評価の計画（9時間取り扱い）

時間	学習活動	評価の観点			
		関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
1	身近なものを巨大につくる意外性に気づき、つくりたいものを考える。	身近にあるものを、そっくりに大きくつくることに興味を持ち、取り組もうとしている。	巨大につくると面白そうなものについて自分のつくりたいものを考えている。		参考作品を見て、巨大化することで生まれる意外性や楽しさに気付いている。
2 3	巨大化させたものをグループで相談し、設計図を書く。		巨大につくると面白そうなものについてグループで意見を出し合い、つくりたいものを考えている。	形や色、大きさやつくる手順などを考えながら、詳しく設計図に表している。	他グループの試作品を見て、よいところや改善点などを思いついている。
4 5 6 7	身近なものを巨大化させることで意外性を感じる作品をつくる。	身近にあるものを、そっくりに大きくつくることに取り組もうとしている。		効果的な形や色、大きさになるよう材料の扱い方、つなぎ方、色の塗り方などを工夫している。	他グループの友人や同じグループの友人の作品を見て、自分の製作に生かそうとしている。
8 9	ギャラリートークを行い、友人の作品の意図や工夫を感じ取る。	自分たちの作品を効果的に見せる展示の方法や発表の仕方を工夫し、作品に込めた思いを伝えようとしている。			自他の表現の意図や特徴、意外性などをとらえ、面白さやよさを感じ取っている。

(6) 本時の展開

◇目標

- ・身近にあるものを、そっくりに大きくつくることに取り組もうとしている。

(造形への関心・意欲・態度)


- ・効果的な色や形、大きさになるよう段ボールなどの材料の扱い方、つなぎ方、色の塗り方などを工夫している。

(創造的な技能)

◇準備・資料

設計図、カラーペン、段ボール、段ボールカッター、ステープラ、ポスターカラー、粘着テープ、両面テープ、カッター、巨大化させるものの実物や写真

◇展開

学習活動・内容（形態）	指導上の留意点・評価 ◎研究テーマに関連する手立て
<p>1 前時までの活動を振り返り、本時の課題を確認する。（一斉）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>設計図を基に、手順を考えながら巨大〇〇をつくろう！</p> </div> <p>2 道具の使い方を確認する。（一斉）</p> <p>3 設計図を見直し、つくる手順やグループ内での分担を確認する。</p> <p>○ 一つのグループを例に話し合う。（一斉）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 丸くなっているところはどうすればいいのかな。 ・ どこから作ると効率よくつくれるのかな。 ・ 接着部分はどうすればいいのかな。 <p>○ 自分のグループで話し合う。（グループ）</p> <p>4 グループで協力しながらつくる。（グループ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ぼくはここをやるから、ふたの部分をつくってくれる。 ・ これはいくつつくればいいのか。 ・ これどうやってくっつけたの。 ・ ガムテープをまるめてつけたよ。 <div style="text-align: center;">  </div> <p>5 本時の学習を振り返り、後片付けをする。（一斉）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の課題を確認し、活動への意欲を高める。 ・ 作業がしやすいように、机や椅子を隅に寄せておき、広い場所を確保しておく。 ・ 段ボールカッターやステープラなど、特殊な道具の使い方を確認し、効果的に活用できるようにする。 ・ 一つのグループを例にとり、どのような手順で作っていくとよいか全体で話し合ってからグループの活動に入ることによって、活動を活発化させる。 <p>◎どのような工夫をすれば本物そっくりにすることができるのかという観点で話し合うようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>関 身近にあるものを、そっくりに大きくつくることに取り組もうとしている。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実物や写真を用意して、そのものの特徴を確認しながら作業ができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業を分業化しすぎて、作り出すものを知らないまま作業をしたり、パーツの大きさが合わなくなったりしないように、十分に相談しながら活動する。 <p>◎他のグループの工夫や、良いところは自分達の作品に積極的に取り入れるように助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工夫している班の作品を全体にも紹介する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>技 効果的な色や形、大きさになるよう段ボールなどの材料の扱い方、つなぎ方、色の塗り方などを工夫している。（観察）</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進んで活動できない児童には設計図を見て進度を確認し、材料の扱い方などの見本を示しながら支援していく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の中で気付いた事や反省点などについて話し合い、次時への意欲を高める。

3 成果と課題

【成果】

○伝え合う活動を学習過程の中に計画的に組み込み、他者との関わりの中で感じる力や思考する力を引き出すことで、発想を広げ、自分の思いを実現する造形活動をすることができた。

グループで一人一人の意見を出し合いながら試行錯誤し、問題を解決していきながら、よりよいものを製作できたということが自信になり、作品の発表ではどの班も、自分たちの作品のよさを伝えるために工夫を凝らし、積極的に発表をしていた。事後アンケート（資料3）で「積極的に自分たちの作品を

発表できた」という児童が増えたことは、自分たちの作品に自信をもち、「作品のよさを他者に伝えたい」という思いでギャラリートークに臨んでいたことの表れである。ギャラリートーク後の感想（資料4）からは、作品を見てもらい、たくさんの意見をもらったことで、さらに自信を深め、満足感や充実感を得ることができたということがわかった。

○グループで思いを実現する造形活動をすることで、一人で製作しているときよりもより大きな達成感や充実感を感じることができた。

また、それによって自分たちのつくったものに対する愛情がわき、ものをつくるということのよさに改めて気付くことができた。

資料3

アンケート結果（男子14名・女子18名 計32名）12月4日実施

1 今回ギャラリートークで積極的に自分たちの作品を発表できましたか。

発表できた	13人	・大きな声でできた
どちらかというと発表できた	12人	・相手に伝わるように発表できた
あまり積極的に発表できなかった	7人	・大人の人がたくさんいて緊張した
できなかった	0人	・あまりお客さんが来てくれなかった

2 みんな（グループ）で一つの作品をつくってみてどうでしたか。

- ・楽しかった。とくに完成したときはうれしかった。
- ・とても大変で中でのいやになっちゃったこともあるけどとてもいいものができてよかった。
- ・いろいろなアイデアが出たり、一人一人のよいところを合わせて作品が作れた。
- ・グループの人と協力して作品をつくり終えたときにやりきったあとと満足した。
- ・みんなと協力して思いどおりの作品ができて、楽しかった。
- ・みんなで一つ物をつくることはいいことだし、大変だと思った。

〈ギャラリートークの様子〉



資料4

〈ギャラリートーク後の感想〉

- ・自分たちが考えたハプニングや協力してつくった作品を見てもらえて、感想を聞いてよかった。
- ・ほめてもらえてうれしかった。がんばってつくって良かった。
- ・自分たちの作品に込めた思いを見る人に伝えるという事が難しかった。
- ・ギャラリートークをするとお客さんがどんな風に自分たちの作品を見て思っているかが分かるから良いと思った。
- ・大人の人の観点が自分たちと違ってびっくりした。
- ・もう一度チャンスがほしい。



【課題】

○個々の想像力、表現力を高めながら共同で製作していくことについての研究を深め、さらには個人で製作する造形活動に伝え合う活動を取り入れる方法やその有効性についても検証していきたい。

○今回授業で培ったグループで問題解決をしていく力や、思考力、表現力などを、他教科や生活の中に生かしていけるよう工夫していきたい。

〈参考・引用文献〉

文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作編」平成20年8月

中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」平成20年1月